

## ～地域の風を感じる「淳風とよなか」の地域連携～

淳風とよなか

### 【はじめに】

特別養護老人ホーム淳風とよなかは平成12年に開設され、平成25年小規模多機能ホーム淳風きたじょう、平成27年小規模多機能ホーム淳風ふたば、平成30年には地域密着型特別養護老人ホーム淳風とよなかをオープンしました。

淳風とよなかのある豊中市庄内西校区は神崎川と旧猪名川、阪急神戸線に囲まれた豊中市南部に位置します。豊中市の高齢化率25.6%に対し、庄内西校区は33%、高齢世帯は37%を占め、災害行動要支援者が多い事、自治会加入率が41%と低く、役員の担い手がいない事、スーパーや商店街がなく買い物できる場所がないことなどが課題となっています。

淳風とよなかでは開設以来、様々な活動の実施、参加を行ってきました。それらの活動を通して、地域住民が主体となり多世代の方々による地域活動が可能となること、地域の抱える課題や取り組みに対して様々な人たちが連携できることを目指し、その考えのもと、平成28年に地域貢献委員会を立ち上げました。淳風とよなかが地域と共にある施設として取り組んでいる活動についてご報告します。

### 【取り組み】

まずは地域の状況や取り組みを把握する為、①包括的活動、ネットワークと施設の関わり強化②地域で行われている活動への参加と新たなニーズの把握③各事業所で実施する活動への相互協力体制作りを目標としました。

町会の夏まつりや小学校区のサマーカーニバル、防災訓練や夜警など、地域で行われている活動へは打ち合わせから参加し、地域住民とのネットワークの構築を図り、当日は地域貢献委員会メンバーだけでなく、淳風とよなかの各部署より参加する事で施設としての地域貢献活動の一つとなっています。

同時に、このような地域行事の参加継続に加え、新たな地域貢献活動としてふれあい市や料理教室、小規模多機能ホームでの‘毎日体操’‘音楽教室’等が始まりました。例えば‘ふれあい

市’では移動訪問販売会社や障がいの作業所に協力いただき、月1回施設内で野菜や果物、日用品等の販売をしています。スーパーや商店街がなく買い物できる場所がないという地域課題の解消だけでなく、施設に足を運び、知ってもらえる機会の一つとなりました。また、小規模多機能ホームふたばでの毎日体操も実施時間の変更等試行錯誤を重ね、現在では地域の方が主体で運営するパワーアップ体操(豊中市オリジナルの介護予防体操)が行われ、地域のつどい場として機能しています。

その他の様々な活動においても都度検討を重ねながら、地域のニーズに合致するものへと少しずつ変化を遂げており、地域の方からは「淳風さん」と呼んでいただき、ふれあい市にボランティアとして町会会長が参加して下さる等、少しずつ淳風とよなかと地域とのつながりが形作られています。

### 【考察】

一方で、自治会メンバーの高齢化や減少、子ども会メンバーの減少、地域の予防センターの閉鎖等の新たな地域の課題が見えてきました。今後のビジョンとして、地域密着型特養内にある地域交流スペース「夢日記」の多角的な活用や地域住民との関係の構築、地域課題の把握や連携を考えています。

まずは「夢日記」を一般開放し、出向くだけでなく迎え入れる活動へとスイッチしています。今後「夢日記」をひろく地域住民の方に利用いただき、将来的には子ども食堂や子育てサークル等、多世代の方々がつどい、更には地域の方が中心となって運営する地域活動の拠点の一つとして浸透する事で地域力、介護力につなげたいと考えています。そのためには地域貢献委員会のメンバーだけでなく、ご入居者を含め淳風とよなか全体としてどのように関わっていくのか、改めて考えていく必要があります。これからも「淳風さん」と呼んで下さる輪が広がるよう、地域の方々と共に継続していきたいと考えます。